

福島学院大学大学院心理学研究科 臨床心理学専攻

令和5年度入学選抜A日程
—臨床心理学とその関連基礎—

受験番号	
氏名	

番号	
----	--

1 下記の文章を読み、1) ～ 3) の問題に答えてください。

人格を正しく診断することは極めて難しく、多様な方法が工夫されてきた。一般に人格テストはテスト形式から三つに分類される。(a)は質問項目群を設定し、それに関する回答を求めるもので、回答の方法には、2件法、3件法、5件法などがある。この方法の長所の一つとして(1)があげられ、短所としては、(2)があげられる。(b)は曖昧な絵、模様、文章などを被検者に提示し、これらに対して表出された内容から、一定の基準に基づいて特徴や問題点を診断する方法である。この方法の長所としては(3)などがあげられ、短所としては(4)などが指摘される。(c)は加算作業や積み木組み立てなどをおこなわせ、一定時間内の作業量や内容などから精神身体的な状態やパーソナリティの表れなどを診断するものである。この方法の長所としては(5)があげられるが、短所としては、(6)が指摘される。

1) (a) ～ (c) に入る用語を下の解答欄に書いてください。

(a) 質問紙法	(b) 投影(映)法	(c) 作業法
-------------	---------------	------------

2) (1) ～ (6) に入る文章を①～⑧から各一つずつ選択し、下の解答欄にその記号を記入してください。

(1) ⑥	(2) ③	(3) ①	(4) ⑧	(5) ④	(6) ⑤
----------	----------	----------	----------	----------	----------

- ① 意識の表面に現れない人格の深層まで把握できる。
- ② 信頼性の検証ができない。
- ③ 被検者が自己を客観的に評定できる力を持ち、かつ素直に応答する場合でないと、結果が信頼できない。
- ④ 心理検査らしくない形をとる場合が多いので、被検者に抵抗が生じにくい。
- ⑤ 直接的に人格、性格を評定するものではない。
- ⑥ 結果の数量的処理が比較的容易で、個人間の比較が客観的にできる。
- ⑦ 特定の母集団からの標本である必要があるという制限がある。
- ⑧ 検査の解釈が検査者の判断や洞察力に依存することが多く、検査者の力量が求められる。

番号	
----	--

3) 語群 (あ) ~ (か) の中から、(a) (b) (c) にあてはまる検査を二つずつ選択し、下の解答欄に記号を記入してください。

(a) い	(a) お	(b) え	(b) か	(c) あ	(c) う
----------	----------	----------	----------	----------	----------

語群

(あ) BGT (い) YG (う) 内田クレペリン精神検査 (え) TAT (お) MAS (か) ロールシャッハテスト

番号	
----	--

2 1)、2) の問題に関して、教えてください。

1) (1) ~ (6) までの()の中に入る適切なことばを、下記解答欄に書いてください。

- ① 世界保健機関（WHO）は 1980 年に国際障害分類（ICIDH）を発表した。それによると、疾患や変調が (1) を生じさせ、(1)が(2)を引き起こす。そして、(1) と (2) が(3)の要因になっている。
- ② 観察や面接により知り得た情報や心理検査を用いて見いだされた情報からクライアントの状態や特性を把握することを (4) という。
- ③ Rogers,C.は、人間にはあらゆる複雑性を実現しようとする傾向があり、人間に生得的に内在する方向性ある傾向であるとし、それを (5) と呼んだ。
- ④ 防衛機制のなかで、(6) とは、自分のなかにある受け入れがたい不快な感情や性格を他者が持っているかのように知覚することである。たとえば、怒りっぽい人が、自らの怒りの感情を受け入れず、逆に他者が自分に対して怒っているのだと決めつけるような場合である。

(1) 機能障害	(2) 能力障害
(3) 社会的不利	(4) (心理)アセスメント
(5) 実現傾向	(6) 投影

番号	
----	--

2) (7)～(12)までの()の中に入る適当なことばを下の語群から選び、その記号を下記解答欄に記入してください。

A 介入群(例：心理療法などを行った人達)の平均値から統制群(例：心理療法などを行わなかった人たち)の平均値を引き、統制群の標準偏差で割ったものを(7)という。

B 実験や研究を行う際、研究に関して研究協力者の自発的な同意が絶対に必要であることは、すでに1947年6月にだされた(8)で明示されている。

C 1990年代に入ると、本当に効果がある方法を用いた臨床心理学的支援の重要性が指摘されるようになり、実践者が科学的な方法論を用いて実践することが強調されるようになった。このようなアプローチに関するモデルを、(9)モデルという。

D 我が国でも、我が国独自の理論的背景を持ち、国際的にも認められた心理療法が生まれている。森田正馬により創始された(10)や、吉本伊信が創始した(11)さらには成瀬悟策の提唱した(12)などはその例である。

(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)
d	j	l	w	u	q

〈語群〉

- a.偏差値、b.決定値、c.変位量、d.効果量、e.同定値、f.ヘルシンキ宣言、g.ロンドン宣言、h.パリ宣言、i.オタワ綱領、j.ニュルンベルク綱領、k.実践家－研究者、l.科学者－実践家、m.科学的臨床心理学、n.効果－検証、o.科学的効果、p.科学的実践効果、q.臨床動作法、r.認知療法、s.解放療法、t.吉本法、u.内観療法、v.同置療法、w.森田療法、x.治療的音楽

番号	
----	--

3 以下では DSM-5(Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders Fifth Edition) に記載されている不安症に関して伺います、各問題に答えてください。

1) 文章を読んで、(1)から (5) までに当てはまる適切なことばを下記解答欄に書いてください。

不安症群は共通して不安や恐怖と関連する行動の障害特徴を持つ障害を含んでいる。(1)は現実の、または切迫していると感じる脅威に対する情動反応であり、一方 (2) は将来の脅威に関する予期であり、予期に関する回避行動等と関連する。

不安症群は恐怖または不安が (3) であつたり、適切な期間を超えて(4)していたりする事によって、一過性の恐怖または不安と区別される。

(5)症では、その人は社会的交流や交流のなかで注視されてしまう可能性のある状況に関して恐怖し、不安がり、または回避する。これらの状況には、知らない人と会うという社会的交流、飲食しているところを見られるかも知れないという状況、人前で何かをする状況が含まれる。

(1) 恐怖	(2) 不安	(3)過剰
(4) 継続	(5) 社交不安(社交恐怖)	

2) パニック症に関して、下記解答欄に 50 字以内で簡単に説明してください。

パニック発作を経験したことで発作が起こることを心配し、また発作のために行動が不適応的に変化する

番号	
----	--

4 下記の1)～5)の文章が説明している用語を、下記解答欄に書いてください。

1) 離れた2点間に刺激を順番に提示することで、先に提示された位置から後に提示された位置に向けて刺激が移動しているように見えるという、Wertheimer, M. が発見しゲシュタルト心理学の誕生の機会となった現象。

2) 教授法など学習条件の学習成果への効果は、認知スタイルなど学習者の特性によって変化するという、Cronbach, L. J. によって提唱された概念。

3) Piaget, J. の認知発達論における基本概念の一つ。人が新しい情報に対し、既存のスキーマに統合させ取り入れる「同化 (assimilation)」ではうまく対応できない場合、既存のものを修正または新しくスキーマを作るなどして対応しようとする働き。

4) 人間の性格 (character) を類型に分類するのではなく、人格 (personality) を構成する比較的多数の単位に分類し、それぞれの程度を測定、それらの値の組み合わせによって個人のパーソナリティを記述しようとする考え。

5) ある集団が SST 実施の前後に得た社会的スキル得点の平均値に、統計的有意差があると言えるかについて検定するとき使用する統計的手法。

1) 仮現運動	2) 適正処遇交互作用
3) 調節	4) 特性論
5) 対応のある t 検定	

番号	
----	--

5 下記の文章を読み、1)～3)までの問いに答えてください。

論証とは、根拠に基づいて、論拠（論理的な理由）を示して、主張することです。論証するためには、「根拠 (date)」「論拠 (warrant)」「主張 (claim)」の3つの要素が必要になります。

根拠は、私たちが経験することができる事実、①具体的なデータのことです。心理学研究の場合、調査や実験で得られた数値や逐語録、また先行研究の文献などが根拠になることが多いです。これらは、根拠を所有する者だけでなく、他の人も直接確認できる客観的なものである必要があります。論拠とは、根拠と主張をつなぐ論理的な説明のことです。常識や社会通念といった共通の決まり、法則や理論的な仮説などが根拠となります。どのような立場で物事を考えるかという「視点」が論拠です。論拠は、普段の生活では暗黙の了解として言語化されないことがあります。論証する際には、「なぜこの根拠からこの主張になるのか」という論拠を丁寧に伝える必要があります。(中略)説得力のある論証をするためには、前提として②正確なデータを用いること、そして、③論拠と主張の妥当性を高めることが重要になります。

下山晴彦・佐藤隆夫・本郷一夫〔監修〕 三浦麻子・小島康生・平井啓〔編著〕(2020). 心理学研究法, ミネルヴァ書房 より抜粋 (一部改変)

1) 下線部①について、下記の量的データ（二重下線部）のうち、間隔尺度にあたるものはどれでしょうか。適切なものを一つ選んで、その記号を下記解答欄に記入してください。

- (a) お小遣いの額と金銭管理能力の関連をみるために得た月当たりのお小遣いの金額 (3,000円)
- (b) 植物の成長記録をする際に計測したその日の最高気温 (25℃)
- (c) 末っ子の性格特性について考察するために得た出生順 (3番目) のデータ
- (d) 体格と性格特性の関連について調査するために得た身長 (156 cm) のデータ

2) 下線部②について、例えば新たに尺度を作成することを目的とした研究の場合に、他の外的な基準との関連性を検討することで確認される妥当性のことを何とよぶか、下記解答欄に書いてください。

3) 下線部③について、仮説検定のプロセスにおける帰無仮説・対立仮説・有意確率 (p 値) の関係について、妥当なものは (a) から (d) のうちどれでしょうか。適切なものを一つ選んで、その記号を下記解答欄に記入してください。

- (a) 有意確率が十分に高い場合、帰無仮説が棄却され、対立仮説が採択される。
- (b) 有意確率が十分に低い場合、対立仮説が棄却され、帰無仮説が採択される。
- (c) 有意確率が十分に高い場合、対立仮説が棄却され、帰無仮説が採択される。
- (d) 有意確率が十分に低い場合、帰無仮説が棄却され、対立仮説が採択される。

1) b	2) 基準関連妥当性	3) d
------	------------	------

番号	
----	--

6 1) ~5) はいじめ防止対策推進法の内容を記述したものです。正しいものには○、間違っているものには×を下記解答欄に記入してください。

1) いじめは法律で禁じられた行為である。

2) いじめとは、自分よりも弱い者に対し行う行為のことを指す。

3) 対象となった児童等が心身の苦痛を感じていなければ、いじめとされない。

4) 児童等とは、学校に在籍する児童または生徒を指す。

5) 児童等がいじめを行っていることが明らかになった場合には、教育委員会が懲戒を加えることができる。

1) ○	2) ×	3) ○	4) ○	5) ×
------	------	------	------	------